

20160731 「バルナバとマルコ」

目標：マルコの生涯についての話を聞いて、マルコ、バルナバそれぞれの心情を考え、自分をも神が成長させて下さることを知り、期待する。

聖句：「しかし、彼は立つようになる。主は彼を立たせることができるからである。ローマ14：4」

時間：10分

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：子供全員に初出の内容であるので、物語形式にならざるを得ない。興味を持続させるため、登場人物それぞれと自分を重ねるように促していく。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	<p>この前の伝道旅行にパウロさんと一緒に参加していた人で、マルコさんと言う人がいました。ところが、キプロス島伝道の後、一人だけ帰ってしまったのです。</p>		<p>マルコがパウロらと離れた理由には大別して二つ挙げられている。一つはテキスト研究にある通り、伝道の大変さに怖じ気づいた類である。もう一つは、パウロの宣教内容に疑問を持ち、ペテロらに報告するための途中退出という説である。そうならば彼はエルサレム会議の呼び水だったことになる。現在まで議論は継続している。</p> <p>上記より、とにかく、マルコをただただ貶める提示は避けるべきである。</p>
課題探究	6分	<p>バルナバさんは、マルコのいとこだったので、また連れて行こうとしたのですが、パウロさんは反対したと聖書は記しています。 結局、パウロとバルナバは、お互い別の場所で伝道することになりました。 それぞれの気持ちを考えてみましょう。 パウロさんは、どんな気持ちでマルコの同行を拒んだのでしょうか。 バルナバさんは、どんな気持ちでマルコの同行を提案したのでしょうか。 マルコさんはどんな気持ちだったと思いますか。 その後、マルコさんはどうなったと思いますか。 パウロが死ぬ直前に書いたと言われるⅡテモテ4章11節を開いて下さい。一緒に読みましょう。 マルコ福音書は誰が書いたと思いますか。 最初のマルコさんと後のマルコさんは、ずいぶん変わりましたね。 人は、なかなか変わらないものです。でも、神様は、どんな人でも、神様のすばらしい器に変えることができるのです。 私達が伝えるイエス様の福音は、どんな人でも変えることのできる力です。教会に誘ってもなかなか来ない人でも、神様は変えることができます。 だから私たちはあきらめなくていいのです。 暗誦聖句</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・途中で抜けるなんてとんでもない ・いとこだから、一緒に行きたい。 ・旅行中にパウロの姿勢を学んでほしい ・わからない ・パウロさんに嫌われてしまった ・パウロさんごめんなさい ・わからない ・パウロと仲直りした。 ・マルコ福音書を書いた。 	<p>一番重点を置くべきポイント。マルコの変化は、バルナバの諭し意外に考えられないからである。</p> <p>恐らく子供たちから出るのは先のような文言だろう。これらは恐らくマルコの心情ではないと思われるが、彼の気持ちを考えること自体に意味があると思う。 解らなくても、考え、想像させたい。 パウロを出しているのだから、これは出ると思う。 福音書執筆者であるとはなかなか気づきにくいだろう。これは開かせて確認させたい。再び一緒に活動しているのである。 時間と彼らの要領に余裕があれば触れる。もちろんマルコである。</p>
まとめ	2分	<p>暗誦聖句</p>		<p>185号のテーマからの反映。</p>